

令和4年度 多摩市立南鶴牧小学校 学校評価書

学校教育目標	
かしこく なかよく たくましく	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
(1) 子供の側に立った教育活動を推進し、生きる基盤となる「知」「徳」「体」を育む。 (2) 社会の中で生きている自分自身になるための、基礎を構築する。 (3) 諸施設、人材といった地域資源・環境資源や家庭と連携・協力し、教育力の相乗効果を生む。	
目指す子供像	目指す教師像
(1)学んだ知識を知恵に高め実践する児童 (2)思いやりの気持ちと社会性をもち実践する児童 (3)健康な心と体を持ち、頑張り、やり遂げる児童 (4)さまざまな関わりを大切にし、関わりをよりよい生活に生かす児童	(1)SDGs 達成に向けて児童の人材育成を図る教師 (2)児童理解を基本に、誰もが生き生きと生活する社会を実現する教師 (3)困難に立ち向かい、克服していく教師 (4)家庭や地域と連携して教育活動を進める教師

I 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	① 「学習規律の確立」②「基礎学力の習得」 ③ 「学びの質を高める」(含ESD)			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
交換授業や校内研究、日常の授業を通じて、意欲的な姿勢を評価。評価90%	4	保護者、児童、教員の三者で目標値を上回った。	A	・学校公開から、児童の取り組む姿勢に意欲を感じた。 ・図書館の活用が見られ、評価の向上に納得。
国語等による基礎学力の定着。評価80%以上	4	保護者、児童、教員の三者で目標値を上回った。	A	
問題解決学習の実践による、主体的・対話的で深い学びと成果としての資質・能力の向上。	3	児童の自己評価が保護者、教員を若干下回る。言語活動の課題が見えてきている。	A	
評価のまとめ	・校内の取組により、児童の学習意欲や、教員の授業力向上の意欲について保護者や地域からも評価をいただけるようになった。 ・新たな課題への取組をしっかりと発信し、理解と支援をいただいく。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	① 「道徳教育の充実」②「生活指導の充実と徹底」 ② 「人との関わりを重視した教育活動の実践」			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
他者との関わりを重点とした道徳科授業の充実と積極的な授業公開。児童・保護者評価90%	3	前年度比はポイントが増加しているが、目標値には1～2ポイント達せず。更なる授業研究をしていく。	B	・運営協議会で学校の様子がよく分かる。いじめや不登校は保護者対応の難しさを感じる。 ・挨拶が少しずつ増えている。高学年が挨拶をすると下学年の子が見習う。 ・初動の迅速さ、事後のケアなど、教職員の意識が高い
校内、学校運営連絡協議会、地域とのいじめ情報共有・防止と児童の安心・安全の確保重大事態の発生「0」	4	今年度はいじめの重大事案が発生しなかった。また、いじめ防止委員会等で教員の意識が向上。	A	
異学年・地域・支援級との交流活動と成果 他者理解の評価 85%以上	3	保護者への発信が十分ではないかもしれない。児童、教員は目標値を上回った。	B	
評価のまとめ	【いじめについて】・教職員の対応の他に、当事者である児童同士が互いの気持ちを尊重し解決に至れる土壌が見られるとの評価もいただいた。 ・案件の大小を大人の目線で判断するのではなく、児童の目線で捉えてほしい、との意見もあり、全職員で共有していきたい。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	① 運動に親しむ資質・能力の育成 ② 心のたくましさの育成 ③ ボランティア・マインドの育成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
体育授業等の充実による運動する楽しさの実感。児童評価85%	2	教員、児童共に目標値を下回った。若手教員を中心とした体育授業の充実が必要。	B	・体育の授業について、子どもたちからの意見も聞いてみては。 ・今だからこそ道徳授業は大事。長く継続を。 ・コロナの影響を感じる。今後の体育、運動遊びの充実に期待。
行事に取り組む意識向上と心の育成。児童評価90%	4	コロナ禍でも行事を充実させた効果が出ている。	A	
ボランティア・マインドを育む奉仕活動、芝生維持活動の実施。教員・児童評価85%	3	児童の評価が目標値を下回った。他者へ貢献できている意識をもたせたい。	B	
評価のまとめ	【行事について】・コロナに対応しながらも行事の充実を目指してきたことは内外で評価が高かった。地域からは「彩りがでた」との言葉もいただいた。 【体育等について】子どもが充実感を感じる体育授業について、しっかりと研鑽を深めていきたい。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	① 教育活動の情報発信の徹底 ② コミュニティ・スクールを見通した地域学校協働本部の活動推進 ③ 合唱団の活動を通じた家庭・地域連携と貢献			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
学校便り、HP、配信メールを通じた徹底した情報共有と教育活動への協調・協働。 地域・保護者評価 95%以上	4	児童の活動を中心に、地域との連携や保護者との連携等について、情報発信を行った。授業関連の記事は120本程度。	A	・情報発信は地域でも評価大。 ・HP、合唱団、放課後、読み聞かせ等、どれも素晴らしい活動。 ・HP等の情報発信によって、多くの関係者が連携の歩調を合わせやすくなった。
学校運営連絡協議会、地域学校協働本部、放課後こども教室、地域未来塾を統括する組織の運営	4	保護者からの評価が高い。参加していない児童にも、さらに呼びかけをしていきたい。	A	
合唱団の公演活動による地域貢献活動を保護者との協働により実施。保護者評価 90%以上	4	合唱団の活動へ否定的な評価はほとんどない。今年度はコンクールや地域行事へ参加できた。	A	
評価のまとめ	【HPについて】情報発信の充実を心掛けてきた。保護者をはじめ、多くの方々に以前は見えにくかった教育活動の部分について理解を深めることに加えて、地域の学校協力者の方々が同じ情報を共有したうえで、活動に取り組んでいただけというメリットに気付いた。地域連携の根幹としても継続していく。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<p><b>【確かな学力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年の算数習熟度別授業、地域未来塾、自主学習、交換授業等、今まで行っていた取組を継続し、学習意欲、基礎学力、思考力を育成する。</li> <li>・今年度課題となった言語活動の充実について、児童がしっかりと思考する授業を地盤とする活動へと変革していく。</li> </ul> <p><b>【豊かな心の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人との関わり」を重点として道徳科や異学年・地域・支援学級との交流をオンラインも活用して継続的に進め、ノーマライゼーションの意識と態度をさらに強く育成し、いじめの未然防止ともする。</li> <li>・インクルーシブ教育の充実、支援学級と通常の学級の教員が授業実践を含めた交流を進める。</li> </ul> <p><b>【健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生校庭の特性を生かした運動に親しむ活動や魅力的な体育授業の実践によって、児童の健やかな体の育成を実践する。</li> <li>・ボランティア・マインドを育む奉仕活動をより推進し、児童の達成感、自己肯定感、自己有用感を高める。</li> </ul> <p><b>【家庭や地域との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールを有効に機能させ、これまでの学校と協力者の連携を複合的・重層的にする。</li> <li>・合唱団の活動を、地域学校協働本部とも連携しながら、推進していく。その活動の中で、児童が得られた達成感を、より広く全校児童に伝播させていく。</li> </ul>
--

以上のとおり報告いたします。

令和5年2月21日

多摩市立南鶴牧小学校 校長 森 信行

公印

# 令和4年度 学校評価書



## 多摩市立南鶴牧小学校